

中小企業いばらき



8
2016 August
No.694



【特集】

茨城県中小企業青年中央会 創立40周年記念 誌上座談会

茨城県中小企業団体中央会

<http://www.ibarakiken.or.jp/> (いばらきビジネス大百科) 〒310-0801 水戸市桜川2-2-35 TEL.029-224-8030

CONTENTS

- 特集 1
- ニュースフラッシュ 10
- インフォメーション 12
- 日本列島組合最前線 15
- 業況レポート 16
- 暑中広告 19
- 中央会だより 28

茨城県中小企業青年中央会創立40周年記念 誌上座談会

県中小企業青年中央会（以下、青年中央会）は、昭和51年9月3日、中小企業組合組織の活性化と次世代を担う青年経営者等の育成を目的に活動を開始し、本年、創立40周年を迎えました。去る7月8日には、組合及び組合青年部関係者のほか、多数の来賓出席のもと、盛大に記念式典が執り行われました。

本式典のスローガンは、『40年の歴史、未来への志、仲間との絆』でありました。中央会では、青年中央会活動の歴史を振り返るとともに、今後の活動の方向性、そして会員間、関係者との絆や連携の重要性を再確認し、創立50周年に向けての第一歩とするため、式典終了後、秋山・海老沢両歴代会長、荒井現会長にお集まりいただき座談会を行いました。

座談会では、中央会の岩間専務理事が進行役となり、3氏から青年中央会活動に対する熱い想いをうかがいました。

— 皆さん、本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

まずは、荒井会長。青年中央会創立40周年式典が盛会裏に開催されましたことをお慶び申し上げます。式典を終えて、今の率直な感想などをお聞かせください。

荒井会長（以下、荒井）：今回の40周年記念式典事業は、会長としての役割を果たせるか、とても不安でしたが、鈴木真一記念式典実行委員長をはじめとする実行委員会のメンバー、青年中央会の役員・会員に支えられて、無事、式典を終えることができました。色々と反省点や改善点があったのも確かですが、今は、ほっとしたというのが率直な感想です。

また、橋本昌県知事、石川誠司全青中会長をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。この成功の裏には、親会や親組合の皆様、会場設営や水戸駅などで案内など裏

方の役割をしていただいた会員の皆さんの協力があり、改めて、関係各位に厚くお礼申し上げます。

私は昨年の通常総会で、青年中央会第20代会長という節目の会長に選任いただきました。就任1年目となった昨年度は、先輩方が築き上げた恒例行事である茨城県知事との懇談会が開催20回目を迎え、千葉、群馬、栃木、茨城の4県の青年中央会による交流会は、本県が幹事県を務めました。また、本年1月に行われた親会である県中小企業団体中央会創立60周年記念式典では、青年中央会会長として決意表明の役を務めさせていただきました。

今回の式典をはじめ、各行事に臨む中で、常々責任の重さを痛感し、不安も大きかったのですが、仲間の知恵と力、サポートのお蔭で責任を全うすることができ、私自身も人間として大きく成長できたと思っています。これらの経験を財産とし、今後の青年中央会の活動、企業経営に活かしていきたいです。



岩間 伸博
茨城県中小企業団体
中央会 専務理事

海老沢 浩幸氏
第15代会長（2005～2007）
茨城県鉄筋業協同組合

荒井 隆一氏
第20代会長（2015～）
茨城県板金工業組合

秋山 信夫氏
第9代会長（1993～1995）
茨城県中古自動車販売商工組合

一 さて、秋山さんが会長を務められていた20年前は、バブル景気が終焉する時期であり、バブル景気を経験した最後の世代だと思います。その当時の青年中央会を振り返っていただけますか。

秋山元会長（以下、秋山）：そうですね。我われはバブル景気のピークを経験しましたし、そこからの下り坂も経験した世代です。当時は、景気が良く、業界も上向きで、組合や青年部の活動が華やかなバブル期に追いつけないほどでした。私が所属する県中古自動車販売商工組合青年部会には、当時30名の会員がいて現在より規模は大きかったです。何をするにもすぐ集まって話し合い、すぐ行動に移すなど、皆が行動力を持っていました。

当時の青年中央会を振り返ってみると、異業種の方と交流し、経験を積む場所、自分の業界、仕事をPRする場所だったように思います。様々な事業や会合に出席して、何かを身に付けようとしていました。バブル景気の真只中、県内各地から時間を割いて参加しているわけですから、何かを得て帰らないと出席した意味がありませんよね。特に我われの世代は、こうした意識が強かったと思います。

青年中央会を通じてできたつながりが、仕事以外の場面でも役に立ちました。出会いは大切にしなければなりません。初対面の人と接した時、人は、その人の外見や態度、話し方をみて、自分にはあわないと思うとその人と少し距離を置くこともあるかもしれませんが、年数を経て器の大きさに気付くことが多々あります。人の内面を理解するには時間がかかるものです。



懇親会で全青中直前会長として挨拶する秋山元会長

現在の青年中央会をみると、当時と経済状況が異なりますので単純に比較してはいけないのですが、今の青年部の皆さんは、少し大人しいという印象を受けています。私が会長を務めていた時代は、強烈な個性を持った人が多くいました。それに惹きつけられて参加した方もいたのではないでしょう

か。今の時代は、良い意味でのそういった個性的というか破天荒というような人が少ない気がしています。

反面、当時と比べて、参加している会員の業種が増えていることは素晴らしいことだと思います。青年中央会に多くの業種が加入していれば、それだけ出会いもあり、また、自分たちの業界にない発想などビジネスヒントを得る機会も増えますしね。それと、青年中央会の組織自体も我われの頃よりしっかりされていると感じています。

一 海老沢さんが会長を務められていた10年前は、バブル景気が崩壊し、失われた20年の最中だったと思います。そのような中で、組合青年部活動、そして青年中央会、関東甲信越静岡のブロック長など、大変ご苦労が多かったと思います。10年前の30周年記念式典、青年中央会活動を思い起こしていただけますか。

海老沢元会長（以下、海老沢）：我われが青年中央会で活動していた頃は、バブル景気が弾けた後で、ほとんどの会員がバブル景気を実感として知らない世代でした。ただ、忙しさだけがあり、上の世代からは、「頑張って仕事をすればバブルの頃に帰れる」とハッパをかけられましたが、現実味がなく「地道に努力する」ことを心掛けていました。



創立30周年記念式典で挨拶する海老沢元会長

30周年記念式典には、県内外からたくさんの方においでいただき、盛大に開催することができました。でも、正直言って細かいことは覚えていません。覚えていないということは、当時の役員や事務局が精力的に動いてくれたからだと思います。それはそれで良かったのですね。

他都県の青年中央会も30周年のところが多く、そちらへ参加することも多かったです。多くの方と交流して、仲間ができました。これは何物にも代え

がたい貴重な経験でした。この時の仲間とは、今でも親交が続いており、青年中央会の活動がなければ知り合うことはなかったと思うと、とても感謝しています。

関東甲信越静ブロック青年中央会のホームページ等を活用しての情報ネットワークは現在も続いていると思うのですが、実は、このネットワークの本格運用を開始したのは、私たちの代の1都10県の代表者なのです。私が会長に就任する以前から、そういう話は出ていたようですが、同じ話題が堂々巡りしてなかなか決まらなかった状況にありました。そこで、私と事務局が話し合い、ブロックの方々に呼びかけて、現在の枠組みを形成しました。今でも全国7ブロックの青年中央会の中で、唯一、関東甲信越静ブロックだけが、ホームページを有し、運用がなされていることは、私の中で誇りに思っています。

一 荒井会長、お二人の歴代会長のお話を聞いてみて、改めて青年中央会の歴史を感じられたのではないのでしょうか。

荒井：40年前というと、私が3歳の頃ですので、その時から現在まで、活動が続いているということ、そして、お二人が会長を務めていた当時の経済環境や考え方、意識などをおうかがいすることができ、今後の青年中央会の活動を進めていく上で、大変参考になりましたし、刺激を受けました。改めて偉大な先輩方に敬意を表します。

私が青年中央会の事業に参加するようになったのは、所属組合青年部である県板金工業組合青年部の部長に就任した時からです。正直、それまでは、青年中央会の存在すら知りませんでした。青年中央会への参加1年目の年は、全体の流れを掴めればと思い、出来るだけ青年中央会の事業に参加するように心掛けてはいましたが、当時の青年中央会会長の佐藤雅彦さん（第16代会長）から、突然、副会長への就任要請がありました。光栄なことではありましたが、まだまだ青年中央会の活動、役割などが把握できていない状況の中で、私に副会長の大役が務まるかどうか不安はあったものの、少しでも役に立てることはあるだろうと思い、お引き受けしました。所属組合青年部の部長経験すら浅い私が、青年中央会に参加して1年余りで副会長に就かせていただき、今、会長をやらせてもらっていることに縁を感じますし、あの時、お引き受けして、挑戦してみても良かったと思っています。

青年中央会の事業に参加してみて、私が最も印象に残っているのは、茨城空港が開港した際、同空港の利活用促進を図ろうと、当時の会長であった笠倉勉さん（第17代会長）らと韓国へ行ったことです。私も知らなかったのですが、韓国にも日本と同じように中央会があり、韓国中央会の紹介で、現地の若手経営者と交流しました。普段の生活の中では、海外の同世代の経営者と交流できる機会なんてないですし、実際に話を聞いて大変勉強になりました。



そのような経験から、私は、青年中央会の活動も時代に即した、新たな事業展開を行っていくことが重要と考えています。直近を振り返りますと、笠倉さんの代から、青年中央会、商工会議所青年部連合会、商工会青年部連合会、経営者協会青年経営研究会の4団体による交流が始まりました。高橋克彰さん（第18代会長）の代には、委員会制を廃止し、その代わりに青年中央会の年間事業に会員青年部を担当として割当て、その担当青年部が各事業を企画運営するための体制の構築やOBとの親睦ゴルフを行うようになりました。また、齊藤佳昭直前会長（第19代会長）の代には、水戸ホーリーホックと連携して、小学生を対象にしたサッカー教室を開くなど、青少年の育成にも力を注いだほか、「活動の見える化」としてFacebookを開設し、ホームページや茨城新聞の中央会ニュースと併せ、青年中央会・会員青年部の活動を広くアピールしています。

お二方をはじめ歴代会長のカラーを改めて実感する中で、昨年11月の県知事との懇談会において、橋本知事から「若いのだから、どんどん知恵を出し合ってチャレンジしてほしい」と言っていただいたことを思い出しました。私も残された任期の中で、青年中央会のさらなる飛躍と発展を目指して会員と力を合わせ、色々なことに挑戦していきたいと感じています。



創立40周年記念式典で挨拶する荒井会長

一 県内外に様々な青年団体がありますが、お三方に、他団体にはない青年中央会の特長、強みをお聞きたいと思います。

まず、秋山さんからお願いします。秋山さんは、全国中小企業青年中央会の第3代会長を務められましたので、その観点からお話いただけますでしょうか。

秋山：縁あって、全国中小企業青年中央会の第3代会長を務めることになりました。初代会長の青柳政和さん（栃木県）、第2代会長の黒澤久さん（埼玉県）に次いで私が第3代の会長を引き受けることになりましたが、当時は、会長に就くなんてことは夢にも思っていませんでした。何せ全国の会長ですから。



でも、任された以上は職務を全うしようと決意しました。会長の仕事に注力しすぎて、自社の経営がおろそかにならないよう気を付けていました。当時、時間の使い方を学んだことが今でも役に立っています。会議に出席するだけでなく、その会議で「何を学ぶか」を常に考えて行動することが必要です。

冒頭にもお話ししましたが、青年中央会の強みは、『異業種団体の集まり』ということに尽きます。同業者間では得られないものがたくさんあります。業界の振興、自社の経営においてもたくさんのヒントをいただき大変有意義でした。当時、築いた人脈は20年を経過しても続いており、今でも仲間から助言をもらっています。

一 次に海老沢さんですが、青年部活動を卒業されてから約10年が経過し、現在は、親組合の専務理事に就任されています。同じ世代の方々も、親組合

の執行部として組合及び業界を牽引する立場に就かれていることと思います。

青年中央会の活動を通じて、役に立っていること、



良かったことなどお話しただけですでしょうか。

特に、親組合と青年部会が連携して県内の高校を対象に開催した「出前講座」は、大変興味深いものがあり、他団体の参考になると思いますので、

取り組みの経緯などもお話しただけですでしょうか。

海老沢：私の所属する県鉄筋業協同組合の青年部会では、設立当初は親睦会に近いものでした。その後、試行錯誤を繰り返し、親組合ではできない事業を青年部で実行しようということになりました。現在、私は組合の専務理事に就いていますが、実質的には、親会の決定事項を青年部会に伝え、青年部会の熱い想いを親組合に伝えるパイプ役を担っています。一般論ですが、しばしば若手の前向きな考えや動きを先輩が毛嫌いするという話を聞くことがあります。私は、それが起きないように調整したり、一方、元青年部会長として青年部会にダメ出しすることもあります。

当組合の親組合と青年部会が連携した取り組みには、技能祭、ものづくりマイスターの育成、そして出前講座があります。出前講座は、昨年度初めて実施した事業です。ものづくりマイスターの認定を受けた組合員及び青年部会員が県内の3高校に出向きました。初めての事業ですから、生徒たちに何をどこまで教えるか悩みました。座学の際は生徒たちの反応が薄かったのですが、実技に入ると、生徒たちの目が輝き始めました。慢性的な人手不足、高度な技術を次代へ継承していくためにも、このような取り組みを続けていくことの重要性を改めて感じています。



親組合と青年部会が連携し県内高校で実施した出前講座

青年中央会で共に活動していたメンバーも他の親組合で役員になっている方も多くいます。今後はその繋がりを活かして親組合間の連携を深められたらいいなあと感じています。特に建設関連の組合では同様の悩みを抱えているので、1業界での取組みよりパワーが発揮されるはずです。

1社1社のつながりに加え、業界間の交流や連携を図ることができることも青年中央会、中央会の強みだと思います。そして、それは県内にとどまらず全国規模で広がる可能性もあり非常に魅力的です。

一 荒井会長、現会長として青年中央会の特長を分析していただけますでしょうか。また、数年前から4団体の青年部交流が活発になってきています。そのあたりのお話もいただけますでしょうか。

荒井：他青年団体は個人で構成され、自己研鑽を目的としているのに対して、私ども青年中央会は、それに加え組合や業界の発展を図ることによって自社の繁栄を築くことを目的とする組織であることが一番の違いであり、強みだと思います。



秋山さんのお話にもありましたように、我われは若手異業種団体の集団です。ネットワークは、業種・業態を問わず、全国に広がっていますし、つながりの強さをもっています。

また、海老沢さんのお話にもあった、親組合の役員となり交流、連携を図ろうとする際、青年中央会で築いた人脈は大きな武器となると思います。

さらに、これまでお二人のお話の中にもありましたように、4団体との交流会は、ひとつの業界、団体として活動しては得られないような、気づきやヒントがたくさんあります。例えば、定期的に海外に視察研修に行ったり、ビジネスマッチング会を開催している団体もあります。他団体の良いものは取り入れることも必要だと思いますし、青年中央会の特長もどんどんPRしていくことが重要だと考えています。そういった意味では、4団体青年部組織の交流は意義があると思います。

一 皆さんのお話を伺って、青年中央会の強みを再認識しました。それは、県内各業界、各地域を代表する組合青年部の集合体の異業種団体であることです。この団体のネットワークが、県内だけでなく全国に広がっていること。また、親睦・交流だけでな

く、ビジネスチャンスの役割も担っていることなど、つながりの広さ、深さも強みですね。

一方で、組合関係者の方々には、組合青年部、青年中央会の重要性をご理解いただいているものの、必ずしも青年部の数や青年中央会の会員数が増加していないことも現実であります。

お三方もご経験の通り、青年部活動を行っている世代は、ご自身の企業や所属組合で重要な立場に就かれ、現場では第一線でご活躍されている方が多く、青年部活動を行うことが難しい面もあろうかと思えます。

そのような中、組合青年部を設置していない、または組合青年部はあっても青年中央会に加入していない組合もあります。このような組合に対して、海老沢さんからご意見を頂戴したいのですが。

海老沢：我われの業界に限らず、人材不足解消は喫緊の課題であり、解消するには、早いうちから対策を講じる必要があります。これは、従業員だけではなく、業界、企業の後継者も同様です。先を見据えた時、組合に青年部の設置が必要なことは自明です。業界を盛り上げるには若い力が必要です。「設置しようにも人がいないから…」と話す方もいますが、最低限の人数でも良いのです。何も難しいことはない。立ち上げてからどんどん加入させればいいんです。まずはビジネスチャンスの創出以外の部分で、飲み会やゴルフなどで交流することから始まって良いと思いますよ。



それよりも「青年部に参加することによって得られるメリット」を伝えることが一番難しいかもしれません。組織に加入したら自動的にメリットを受けられるわけではありません。自分から学ぼうとする姿勢、取り入れようとする意気込みがなければ、メリットは見えてこないと思います。人との交流を通じて、自身が変わるチャンスを得られるという点が青年部活動での最大のメリットではないでしょうか。仲間づくりは、自らがアクションを起こしていかなければ実現しません。

一 秋山さんが会長を務められていた頃は、中央会自体の予算も豊富で、青年部、青年中央会に対する助成事業は現在よりボリュームがありました。例えば、県内各地で親組合の理事長にお集まりいただき、秋山さんをはじめとする青年中央会役員の皆様が手

分けて青年部活動の事例紹介をしたり、青年中央会20周年事業として、中央会と青年中央会共催で、水戸の武道館において「中小企業組合まつり」を開催したこともありました。

予算規模はどうであれ、このような事業は現在でも必要と思われるか。

秋山：組合まつりは、親組合との共催でしたから、組合青年部から親組合への世代交代をスムーズに行うために…という側面があったと思います。県内各地で親組合の理事長さんに組合青年部活動、青年中央会の事業を周知するための懇談会を開き、組合青年部の設置促進も行いました。当時は、青年中央会の組織が現在ほどしっかりしたものではありませんでしたから、今こうした事業を行えば、成果も大きくなるかもしれません。

但し、やるからには内容の濃いものにしなければいけませんね。組合とは、青年部とは、青年中央会とは…というものを外に向けてPRする機会は、予算の大小にかかわらず、地道に継続していくことが大切だと思います。

青年部員は、いわば経営者の卵、業界の宝です。この方々を育てていくためにはどうするか。企業として、業界として目的意識を強く持って後継者育成に取り組んでいくべきです。

一 荒井会長、お二人のご意見をふまえて、組合青年部や青年中央会の活動を活性化するためのアイデアは何かおありでしょうか。

荒井：少子高齢化が進んでいる現在、後継者に限らず、従業員の確保など、人材不足に苦労している組合、企業が多いのではないのでしょうか。その解決策のひとつとして青年部活動の重要性を強く感じていますが、会員数の減少、組織力強化など非常に難しい課題もあります。

私としては、組合青年部の定年年齢の引き上げを実施してもよいのではないかと考えています。青年中央会の会員で、45歳から50歳に引き上げを行った青年部もあります。

また、私の所属する県板金工業組合青年部には、現在、部員が26名います。以前は、青年部の集まりを水戸でしか行わなかったもので、地理的に参加することが難しい部員の参加率が著しく低かった時期がありましたが、県内各地で会合を開くなど参加しやすい環境を作ることで、改善が図れました。このような事例もありますので、部員のニーズを的確に

捉えることが必要だと思います。

組合青年部の中には、部長さんが代わった途端に青年中央会の会議に出てこなくなることがあります。青年部の後継者育成という意味でも、部長さんだけではなく、執行部の皆さんにも青年中央会の事業に参加していただきたいと思います。

青年中央会担当の役員を置いているケースもあります。部長さんが何かと多忙なため、代わりの役員が青年中央会の会議等に参加するなど負担が偏らないような役割分担も考えなければいけないと思います。

一 まだまだ皆様からお話を伺いたいところですが、時間も少なくなってきました。

歴代会長である秋山さん、海老沢さんのお二方から、40周年を契機に青年中央会が更に飛躍するため、今後の中央会に期待すること、エールなどを送っていただきたいと思います。

まず、秋山さんお願いします。

秋山：繰り返しになりますが、青年中央会は異業種の集まりです。他の分野から、自社の経営に活かせるヒント、発想をもらうことができます。私は、「出会いはお金儲けの場」だと考えています。様々な分野の人と出会うことで、自分を大きく成長させることができます。

そして、青年中央会や組合青年部の活動は重要ですが、まずは自社の経営に真正面に向き合わなければなりません。「個」が元気にならないければ組織も活性化しませんから。

最後に「人との出会いはチャンス」という言葉を贈ります。



一 続きまして、海老沢さんからもメッセージをお願いします。

海老沢：青年部に加入して、自分が何を学ぶかが重要です。私自身、組合青年部や青年中央会の活動を

通して人間として非常に貴重な経験ができ、大きく成長することができたと感じています。

組織活動を行う上で大切なことのひとつに、規模の利益、いかにして人を集められるかを考える必要があります。荒井会長をはじめ青年中央会の役員の方々には、集めるというよりは、集まる仕組みを作るために知恵を絞っていただければと思います。



― 荒井会長。歴代会長と語り合っていたいただき、青年中央会の歴史を再認識できたのではないのでしょうか。また、お二人から今後の活動へのエールも頂戴しました。

最後に、40周年記念式典での決意表明を踏まえ、「未来への志」についてコメントをお願いできますでしょうか。

荒井：1人、1社では小さな力でも、連携すれば大きな力になります。組合青年部は1社1社の集まり。さらに青年中央会は、それら組合青年部が集まった組織であり、連携をしていけばもの凄い力となります。この連携組織を通じて、色々なことにチャレンジしていくことが、会員組合青年部及び傘下の青年部企業の活性化に繋がり、ひいては、青年中央会の発展にも繋がっていくのだと思います。

今回の座談会を通して、諸先輩方が築いてこられた青年中央会の歴史と重みを再認識することができ、また、青年中央会の強みや課題、今後の青年中央会の活動にとって大きなヒントが得られるなど、大変貴重な時間を過ごすことができました。改めて、歴代会長の秋山さん、海老沢さん、進行役を務めていただいた親会の岩間専務理事、事務局の皆様にお礼申し上げます。

本日の貴重な先輩方のアドバイスについては、役員会等の機会に内部での情報共有を図るとともに、記念式典のスローガンである「40年の歴史 未来への志 仲間との絆」という言葉を胸に刻み、会員一丸となって偉大な先輩方の活躍に恥じない青年中央会を創り上げていきたいと思っています。



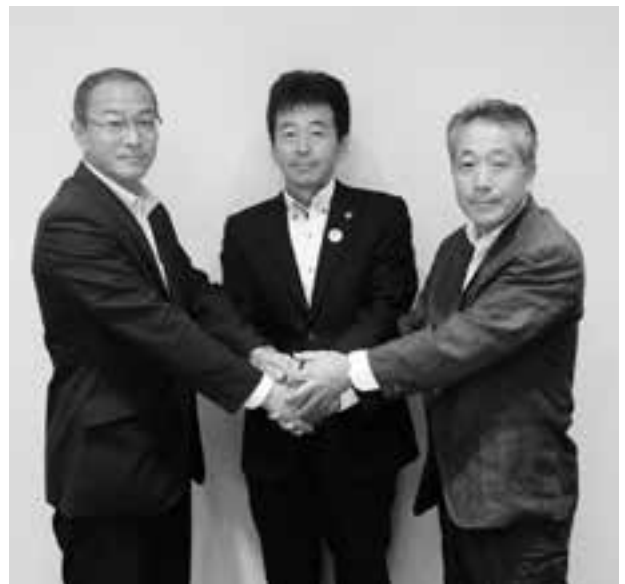
― 中小企業を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。社会経済環境も変化し、組織よりも個を重視する考えをお持ちの方も少なくありません。

しかし、今回、お三方のお話をうかがって、どのような時代、環境であっても、「人と人」、「仲間との絆」、「連携力」が企業経営にとって最重要テーマのひとつであることを再認識しました。

1企業だけでなく、組合・業界、県内経済の次代を担う青年経営者、後継者の育成なくして中小企業、地域の発展はありません。

青年中央会ならではの仲間との絆をさらに深めていただき、組合青年部、そして創立40周年を迎えた青年中央会の益々の発展、皆様のご活躍を祈念申し上げます。座談会を終了させていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。



茨城県中小企業青年中央会の活動概要

- ・ 会員数
24団体（構成員518人）、2個人
合計520人
- ・ 以下のような活動をしています！



橋本昌茨城県知事との懇談会



4団体（青年中央会、商工会議所青年部連合会、商工会青年部連合会、経営者協会青年経営研究会）による意見交換会



千葉県、群馬県、栃木県、茨城県の青年中央会による交流会
 去年は、本県が幹事県となって実施しました
 写真は笠間焼陶芸体験の様子



水戸ホーリーホックとの連携による親子サッカー教室
 元 日本代表FWの鈴木隆行氏をお招きしました



会員組合青年部の運営支援
 写真は県板金工業組合の全国大会

青年中央会ホームページはこちら

<http://www.ibarakiken.or.jp/seinen/>

Facebookページはこちら

<https://www.facebook.com/seinenibarakiki/>

青年中央会では、組合青年部の設立、青年中央会への加入に関するご相談を随時受け付けています。
 お気軽にお問い合わせください。

電話:029-224-8030

E-mail: seityuu@ibarakiken.or.jp